

拝啓

日本製紙株式会社 社長 三好 孝彦様

日本製紙の環境方針はオーストラリアの森林を救えます。

此の度私は貴社の環境方針について、そしてその方針がオーストラリアの森林を救うのに如何に役立つのかについて述べたいと思い、この手紙を差し上げました。

私達は、貴社が2008年迄にウッドチップの供給源を公認された森林もしくは植林地にする予定であるという声明を歓迎致します。この方針が十分に適用されるなら、貴社は世界の森林保全において主要な役割を担うという榮譽を受けることになるでしょう。

オーストラリアの森林は貴社の方針によって大きな利益を受けられます。現在貴社はウッドチップを、貴社が大株主であるイーデン・ウッドチップ製造会社から購入しています。同時に貴社はタスマニアの天然林からもウッドチップを得ています。

貴社のウッドチップ需要の大半を満たすことができる植林地を、貴社はオーストラリアに保有しています。これらはビクトリア州の日本製紙ツリーファーム有限会社と西オーストラリア州のWAプランテーション・リソーシズ有限会社です。

イーデン・ウッドチップ製造会社は天然林からウッドチップを製造しています。しかし、天然林はウッドチップの供給源として公認されていません。

天然林に適用可能な認証制度も、科学者が素晴らしいと認めた認証制度もオーストラリアにはありません。

このような事情により、私達は貴社にその環境対策を適用して頂きたいのです。具体的にはイーデン・ウッドチップ製造会社を、ウッドチップの原料として植林地のみを用いるポートランドに移して戴きたいのです。

イーデン地区には植林地が殆どありません。イーデン・ウッドチップ製造会社が2008年迄に植林地を原料とするウッドチップを供給できるという可能性はありません。さらに、素晴らしい認証制度の下で、認証を受けた森林からウッドチップを供給できるという可能性もありません。

イーデン・ウッドチップ製造会社のポートランドへの移転はオーストラリアで大歓迎されるでしょう。

イーデンの森は過剰な伐採を受けたため、その森に棲む動物は危険に曝されています。その一つがコアラで、イーデン地区では滅多に見られなくなりました。

ウッドチップ製造会社をポートランドに移転すれば、コアラを救うことができます。

私の手紙が、貴社のその環境方針の適用に当たって大いに役立てば幸いです。貴社は日本の製紙業界において環境政策面での先駆けとなるでしょう。それだけでなく、オーストラリアのコアラを保護できるでしょう。

貴社からのご返事をお待ちしています。

敬具